

全国の地道な運動に刺激と感動を受ける

— 商工交流会の感想

吹田民商常務理事 西尾 栄一

「小企業の活躍を促す自治体施策」の分科会に参加しました。この分科会はいつも大人数で、全商連の太田会長や岡崎事務局長も参加されていました。助言者は京都大学の岡田知弘先生でした。私は6名の報告者の一人として吹田市のダンピング問題解決に向けた運動を報告しました。報告後共産党の国会議員秘書の方2名としんぶん赤旗の記者から激励をいただきました。(9月9日付しんぶん赤旗にその時の記者の方の「社会変えられる実感」の記事が掲載されていたので別枠で紹介しました。)

帯広民商の報告にはいつも刺激を受けます。帯広市中小企業振興基本条例が制定されて今年で10年を迎えます。それを記念して主催のイベントが計画されているそうです。条例の施行後、地元業者から「地域」という言葉がよく出てくるようになり自分の会社と地域の発展を考える業者が増えたそうです。農商工連携を初めとした循環型経済を実践する企業も増加してきました。「十勝のパン」や「マッシュ」は地域外でも人気です。十勝の企業数も増加しているそうです。報告者の志子田さん(スナック経営)は帯広民商の会長で市の産業振興会議の委員でもありません。民商では小規模企業振興基本法の理念を踏まえた条例の見直しを市に働きかけているそうです。

京都中京民商の「ぐるぐる循環ネットワーク」の活動報告も感動的でした。この組織は、「中京区というレベルで地域社会をどう作るか、地域循環型の経済社会をどうやってつくっていくかを考える場」として、2017年1月29日に結成されたそうです。この間、結成記念シンポジウムの報告集を作成して販売しています。地域の商店街の役員さんや学校の先生なども登場しています。また、「フトコロあためて、地域を元気に」(講師は京都総評議長の梶川氏)、「再賃上げて、地域を元気に」(エキタス京都の橋口氏)など、どうすれば地域が元気になるかと定期的に学習講習会を開催して学んでいます。商工交流会の参加も方針になっており、10月にはその報告会もあるそうです。また、岡田知弘先生の「地域づくりの経済学入門―地域内再投資論」の読書会や地域巡りも行っています。現在の会員数は個人35名と3団体ということです。驚いたのは、この組織の事務局長が昨年11月に中京民商に入局したばかりの20代の新人女性だったことです。おだてられてと言っていました。実に楽しそうに活動しています。

知多中央民商の成田さんは、愛知県や名古屋市の大学と連携して実現した「低コスト高耐化工法」の講師陣の一人として四国全県や近畿、中国、九州の多くの県に出向いて普及しているそうです。特に高知県では耐震要求が強く、自分が紹介した女性建築士は大忙しになっているということでした。耐震要求に沿った共同研究の成果が仕事起こしにつながっていることが分かりました。福山民商の加賀さん(全商連副会長)は、福山市が製造業2600社の実態調査を市職員自らが行っていると報告がありました。加

賀さんの事業所には2時間近くもいたそうです。この調査結果がどのような施策となるのか楽しみですが。全国の運動は、地域経済振興条例をつくる運動だけではなく、その条例をどう具体化するのか、そして、中小業者自らがどのように循環型地域経済に参加していくのかを実践する多様な運動として発展していることを実感した交流会でした。

「こちら」経済部

中小商工業者の全国交流集会で活発に議論する業者や研究者たちの姿に胸が熱くなりました。40年近くになるこの会合は今年愛知県で開催。2日間にわたり、地域経済や暮らしを守る全国の多彩な取り組みが紹介されました。

群馬県商工団体連合会は、県内の全自治体に要請し、小規模企業振興条例を広めています。活動を通じて、県から民主商工会(民商)は「支援団体」と認められ、信頼を集めています。

社会変えられる実感

実態を知らせることで自治体を動かす取り組みも。大阪府吹田市の民商は、市が委託する造園業務で価格が不当に引き下げられるダンピングが横行していた実態を市に告発。ダンピングとは認めない市と懇談を重ねることで市の姿勢は変化し、具体的な改善制度を実現しました。

多くの人々で共同を築き、粘り強く声を上げることで社会は変えられる。このことを改めて実感した取材でした。(斎藤)

改憲許さん！平和で商売元気なおおさかを業者婦人ひとりひとりが

輝く社会にしよう！

9月9日(土) 大商連婦人部協議会の第43回定期総会が開かれました。吹田民商からあい川支部の比嘉さん、片山支部の清野さん、千里丘支部の山本さん、事務局2名が参加しました。

総会に参加した事務局の松田さんは「大阪市内の南部や堺や泉南の民商の婦人部が工作教室など色々な行事が行われていて、とても活発に活動されていることに感心しました。参加されている方は自分より高齢の方が多かったですが、本当に元気でパワフルな方が多く、元気をもらいました。」との思いで帰ってきました。また、比嘉さんは「久しぶりの参加でした。皆さんがとても頑張っていることがよくわかった。自分も少しでも力になりたい。10月に東京で行われる全国業者婦人決起集会にも参加します」と表明されました。



商工新聞は経営のヒント・ノウハウの知恵がいっぱい 毎週必ず届けましょう
会費集金は会員の心をあしめる活動です 毎月10日までには集めましょう